

あざみ おおつか 皆見大塚古墳現地説明会資料

～京都平野、初の装飾古墳の発見～



写真1 皆見大塚古墳全景写真（南から）

平成22年4月25日（日）

10時～12時

みやこ町大字皆見

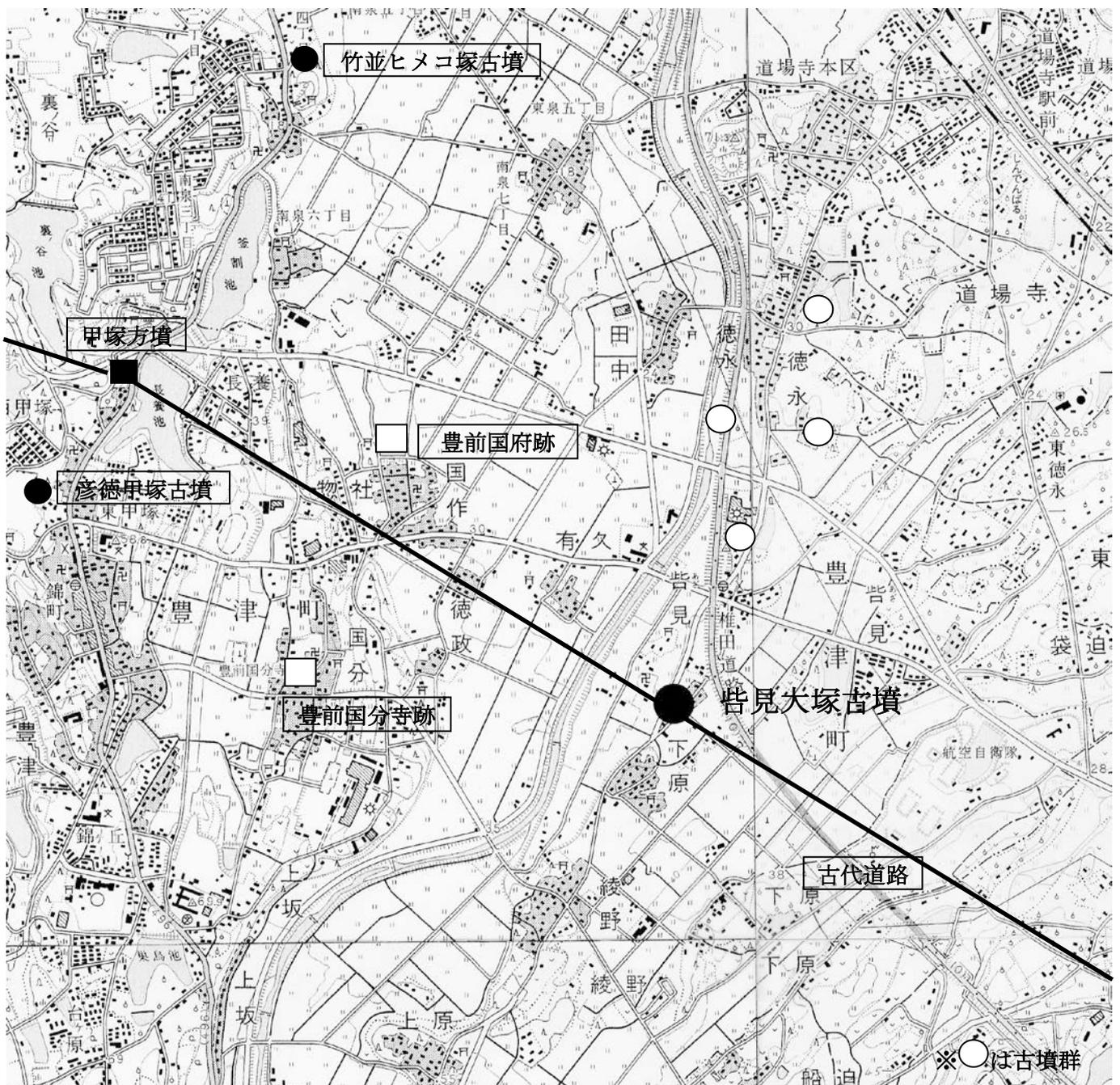
1,はじめに

福岡県教育委員会では、東九州自動車道（仮称 豊津 IC）建設に伴い、平成20年10月より、皆見・下原地区の調査を実施しています。

皆見・下原地区では、過去に椎田道路建設に伴う発掘調査と平成20年度の東九州道Ⅰ～Ⅲ区の発掘調査で、古代から中世にかけての古代官道と集落遺跡を確認しました。

平成21年度の調査では、皆見大塚古墳が装飾古墳であることを発見しました。

- ・場 所 京都郡みやこ町大字皆見 927 ほか
- ・調査機関 福岡県教育庁総務部文化財保護課



第1図 皆見大塚古墳位置図 (1/25,000)

2,装飾古墳とは？

古墳の盛土内に造られた石棺や石室、崖面に掘られた横穴などに文様や絵画を彫刻・線刻・彩色したものを装飾古墳といいます。

全国では約 700 基（そのうち九州には約 400 基）あります。福岡県は、熊本県について多くの装飾古墳があり、この皆見大塚古墳で約 82 基が確認されたこととなります。

※参考資料 福岡県の装飾古墳

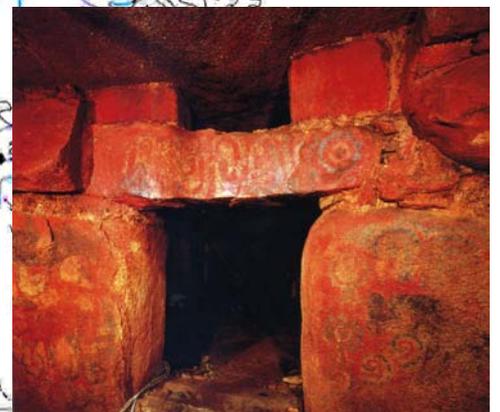
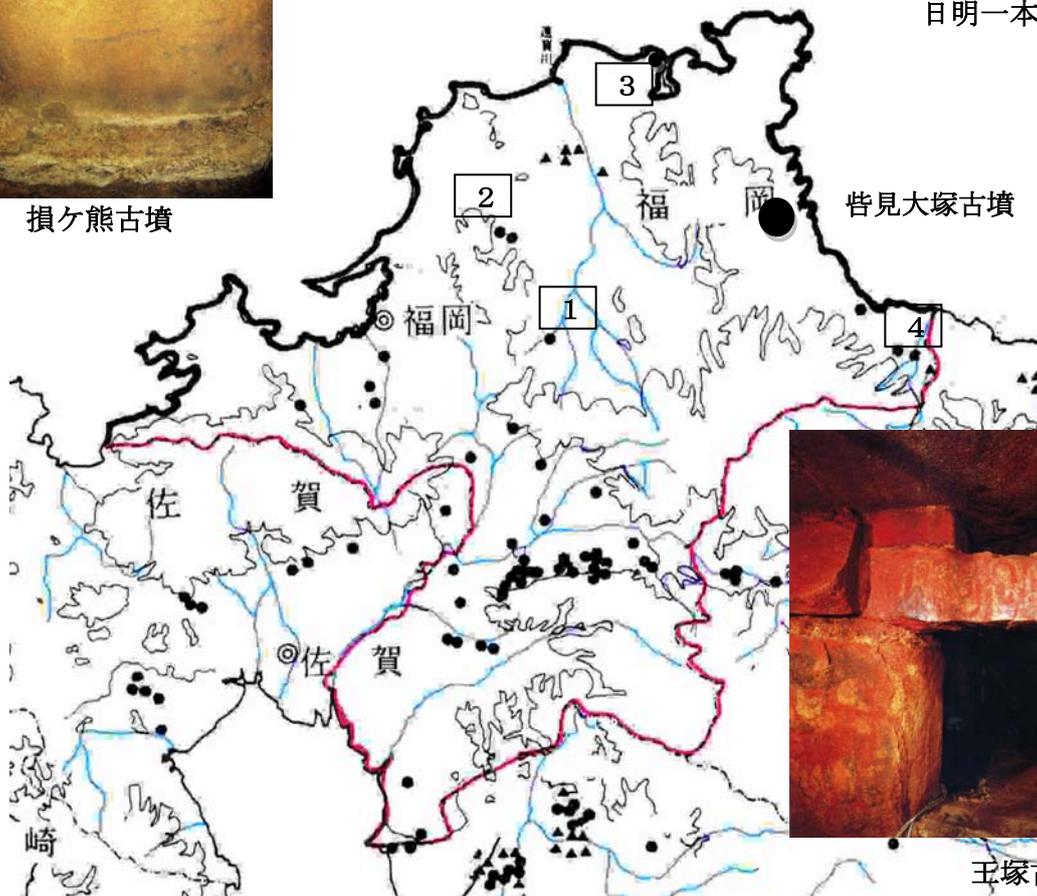
- 1 王塚古墳（オウヅカ）（嘉穂郡桂川町）… 6 世紀中
彩色（赤・黒・白・緑・黄）
三角文・円文・同心円文・双脚輪状文・靱・盾・大刀・弓・蕨手文・騎馬像
- 2 損ヶ熊古墳（ソンガクマ）（宮若市）… 6 世紀末
彩色（赤） 直線・横線・斜線等幾何学的文様
- 3 日明一本松塚古墳（ヒアガリイッポンマツヅカ）（北九州市小倉北区）… 6 世紀後半
彩色（赤） 放射状線
- 4 百留横穴墓（ヒャクドメ）（築上郡上毛町）
彩色（赤・黄） 円文



損ヶ熊古墳

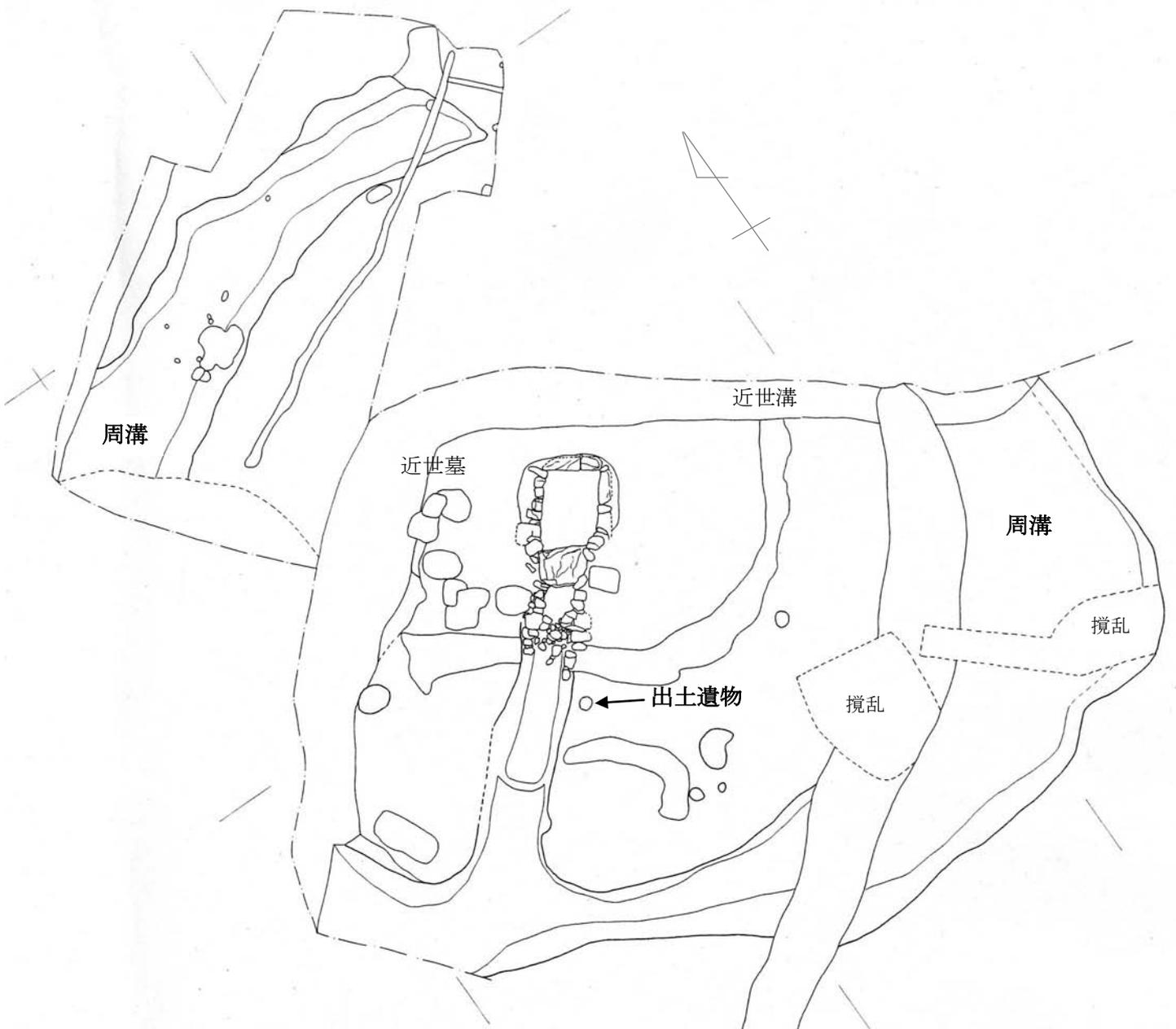


日明一本松塚古墳



王塚古墳

第 2 図 福岡県の装飾古墳（※1997 熊本県立装飾古墳館を改変）



第3図 皆見大塚古墳の全体図 (1/200)

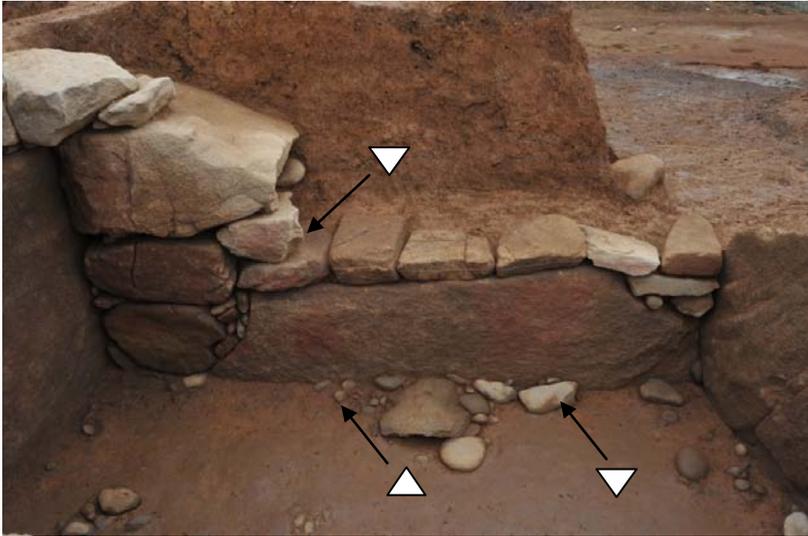
3,調査の成果

① 古墳の概要

- ・墳丘は、約 25m (周溝含めると約 30m) の円墳となります。墳丘上部及び周溝は宅地や田地化の造成などで破壊されていました。そのため発掘調査を始めるまで、古墳があることは解りませんでした。
- ・石室は、長さ約 7 m (墓道を含めると約 14m) で複室構造 (前室と後室がある) の横穴式石室 (後室は長軸×短軸で約 3×2m) になります。特に後室部分では、中・近世頃の破壊を受けて後室内の石材は、ほとんど抜かれていました。

②皆見大塚古墳の装飾について

- ・現在判別できる彩色は、赤色のみです。内容は、同心円文および円文が **2**、三角文が **11**、×印状が **1** となります。位置は、後室は左右側壁に三角文、奥壁に同心円文、後室左袖石には×印状や両袖石の正面及び側面にも三角文などの文様を施すなど周壁全面に壁画が施されています。また前室部分では、前門右袖石にのみ三角文を確認できます。



※三角文 蛇や竜の鱗

写真2 左側壁

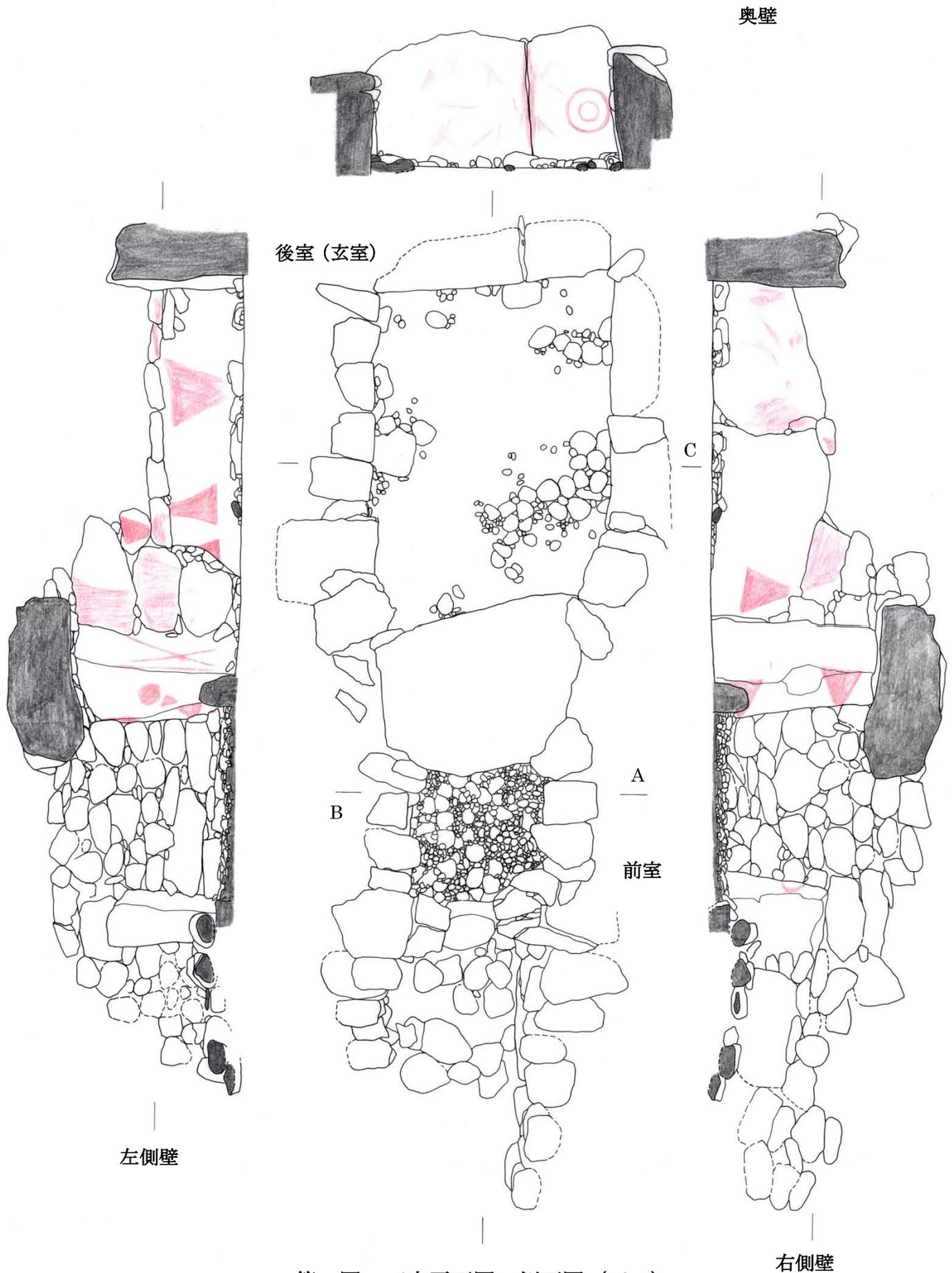


写真3 右側壁



※同心円文
鏡や太陽

写真4 奥壁



第4図 石室平面図・側面図 (1/40)

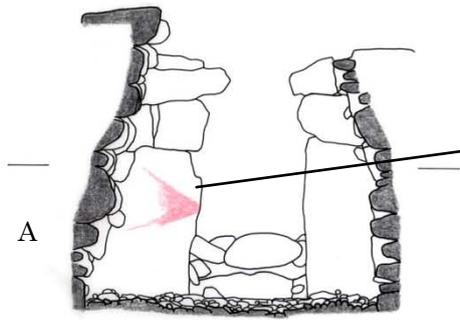


写真5 前門右袖石

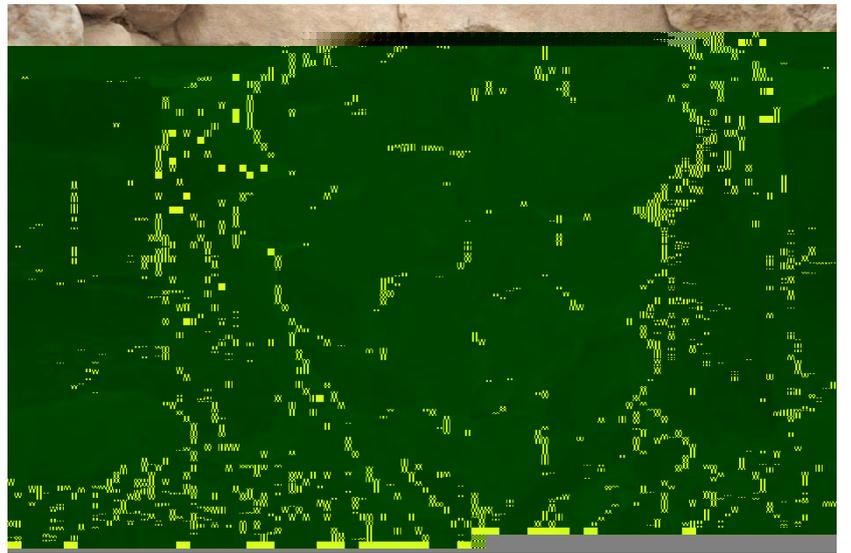
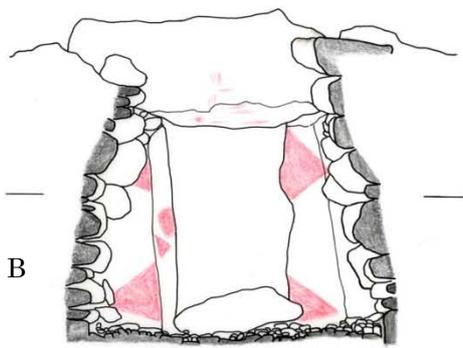
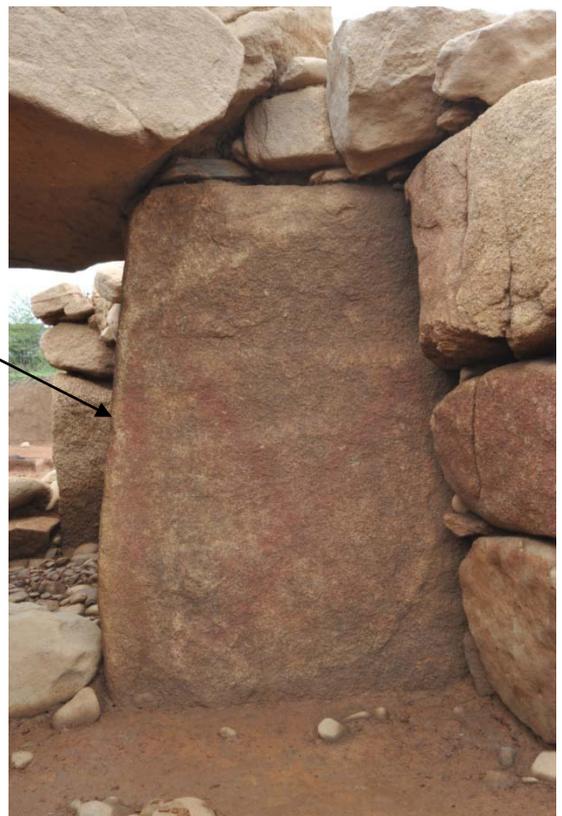
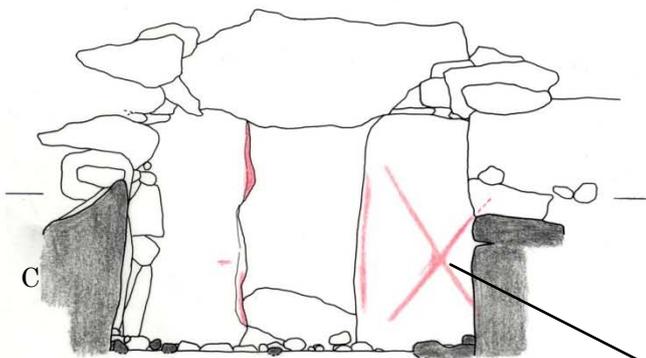


写真6 玄門



第5図 石室平面図・側面図 (1/40)

※×印状

写真7 玄門左袖石

③ 出土遺物

- ・古墳からは、多数の須恵器や土師器が出土しました。中でもこの地域では、珍しい装飾付須恵器片が出土しました。
- ・また墓前祭祀の痕跡を示した須恵器坏の4セットが出土しました。
- ・後室からは、耳環^{じかん}4個、ガラス小玉70個以上、管玉^{くだたま}5個、鉄製品などが出土しました。
- ・前室からは、単鳳環頭大刀^{たんほうかんとうたち}1振と馬具（中身については現在処理中で詳細不明）、又須恵器の坏蓋1点や鉄鏃などが出土しました。



写真8 出土遺物（墓前祭祀）

④ 時期

古墳時代後期（6世紀後半頃）



写真9 前室出土遺物

4. 評価

- ・旧仲津郡内では、彦徳^{けんとく}甲塚古墳^{かぶとづか}につぐ大型墳で（当地域の首長墳の1つ）、装飾古墳のない京都平野で初めて発見されました。
- ・皆見大塚古墳の装飾は、上毛町の百留^{ひやくどめ}横穴^{おうけつ}墓群^{ぼぐん}（円文）にはない×印状や三角文を使って描かれるなど、筑後・肥後地方の装飾古墳と共通する様相を示しています。



写真10 装飾須恵器片（左から鳥・鹿・人？）

- ・当古墳のある旧豊前地方では、北九州市の日明^{ひあがり}一本松^{いっぽんまつ}塚古墳^{づかこふん}の放射線状や、大分県側の円文などで彩色された横穴墓などとの、装飾古墳の流れを研究する上でも大変重要であります。

今後も東九州道の発掘調査は続きます。ご協力よろしく申し上げます。